

	コード	名 称	区分	コード	名 称		
事業名	559	高齢者向け優良賃貸住宅供給促進事業	会計	01	一般会計		
			款	08	土木費		
			項	05	住宅費		
基本 施策	30	伊賀市らしい住まいと居住環境を創造する	目	01	住宅管理費		
			細目	389	高齢者向け優良賃貸住宅供給促進事業		
行革大綱の重点事項番号			細々目	51	高齢者向け優良賃貸住宅供給促進事業		
担当部課	コード	190900	担当者 氏 名	藤 岸 登	連絡先	43 -	2330
	名 称	産業建設部建築住宅課				(内線)	301

事務事業の概要 (Plan)

対象(誰を、何を)		バリアフリー化された高齢者向けの民間の賃貸住宅を必要としている高齢・低所得世帯		※対象件数	8件
成果(どうする)		高齢者向けにバリアフリー化された優良な住宅供給を促進することにより、高齢者が快適で安心して生活できる居住環境を実現する。			
根拠法令・要綱等		高齢者の居住の安全確保に関する法律、伊賀市高齢者優良賃貸住宅供給事業補助金交付要綱			
開始年度	平成 16 年度	年度	関連事業		
終了年度	平成 25 年度	年度			
H21 事業 内容		伊賀市内において、高齢者が安全で安心して居住できる良質な賃貸住宅の供給を促進するため、高齢者の居住の安全確保に関する法律第31条の規定に基づき、三重県知事から供給計画の認定を受けた事業者に対し、契約家賃と入居者の収入によって決める入居者負担額の差額について、予算の範囲内において補助金を交付する。21年度においては、伊賀市上野恵美須町内『エルピスハウス』の入居者8名分の家賃補助を行い、高齢者が快適で安心できる居住環境の実現に役立てた。			
社会情勢 の変化等					

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値				目標値	
			H20		H21		H22	H23
	高齢者住宅入居者の補助件数	件	目標	8	目標	8	8	8
			実績	7	実績	8		
			目標		目標			
		実績		実績				

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値			
				H20	H21	H22	H23		
	優良住宅利用率 (家賃補助件数/優良住宅室数)	優良住宅室数を分母とし、家賃補助件数を分子とする優良住宅利用率を指標とする。	%	目標	100	目標	100	100	100
				実績	87.5	実績	100		
				目標		目標			
			実績		実績				

投入 コスト			H20 決算	H21 決算	H22 当初予算	H23 当初要求
	直接事業費計 (A)		(千円) 3,101	(千円) 3,310	(千円) 3,488	(千円) 3,488
	A の 財 源 内 訳	国庫支出金	1,550	1,654	500	0
		県支出金				
		地方債				
		その他	0	0	0	0
		一般財源	1,551	1,656	2,988	3,488
	事業投入人件費 (B)		0.5人 3,600	0.5人 3,600	0.5人 3,600	0.5人 3,600
	フルコスト(A)+(B)		6,701	6,910	7,088	7,088

事務事業の評価 (Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)			備考欄(特記事項)	
必要 性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業			
	個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	○		
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第3者にも利益が及ぶ事業			
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業			
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業			
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	○		
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業			
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業			
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	○		
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業			
有効 性	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業			
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】			
達成 度	財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業			
	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】			
効率 性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。			
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	○		
	サービス水準や対象を見直す余地がある。			
	当初設定した計画を	80%以上100%未満	実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】	
達成 度	予算の繰越の有無	無		
	【予算の繰越がある場合、繰越の種別】			
	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。			
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。			
効率 性	【事業名】			
	受益者負担を求めることができる事業である。			
	全体コストにおける負担構成は適正である。			
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。			

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	高齢者への支援、かつ居住に係る家賃に対するの補助であるため、今後は担当部署の適正についても、庁内において協議を行っていく。今後の市営住宅建替事業(改善を含む)については、伊賀市公営住宅ストック総合活用計画等に基づき、高齢者・障がい者に関係なく誰もが安心して安全に生活できる住宅の供給に努めなければならない。
昨年度の 取組状況	【状況】計画のとおり進んでいる 【詳細】伊賀市上野恵美須町内に建設された『エルピスハウス』の入居高齢者8名の差額家賃補助を行い、安全で安心して居住できる良質な賃貸住宅の供給を促進した。

今後の方向性 (Action)

担当課長氏名	松本次夫
事業の方向性	【方向性】現状維持
	【理由】既存の老朽化した市営住宅を高齢者や障がい者など誰もが安心して安全に居住できる住宅に改修するには、莫大な経費と長期間に渡る工事を必要とする。そのため、民間で建設されたアパート等を活用して、本事業と同様に家賃等補助を行うことで、住環境の充実が担保できる。(トータルコストが安価となる。)
	現時点における課題、その他伊賀市になって市営住宅の将来計画が策定されていない状況である。平成23年度までに、既存住宅の建替や統廃合等、住生活基本計画を策定する中で、市営住宅の方向性を検討する。
課題、その他に対する改善策 (いつまでに、何を、どうする)	平成23年度までに既存住宅の建替や統廃合等、住生活基本計画を策定し、伊賀市の市営住宅の方向性等を検討する。